

特集

男女共同参画基本計画

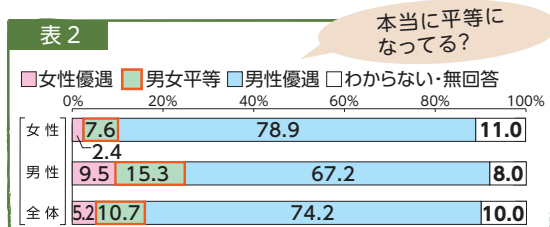
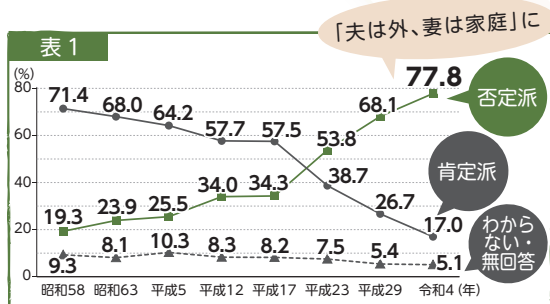
北九州市では、ジェンダー平等を実感できるまちを目指して、第5次北九州市男女共同参画基本計画を策定しました。

策定前に実施した市民意識調査の結果を基に、主に「働くこと」について、第12期男女共同参画審議会委員の皆さんに意見を聞きました。(以下敬称略)

担当総務市民局女性の輝く社会推進室 ☎582・2405

——**市民意識調査**では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別による固定的な役割分担の意識は薄れてきていることが伺えます(表1)。

一方、家庭や職場、地域などを含む社会全体で「男女平等が達成されている」と感じる割合は全体で10.7%と低く、また男性15.3%、女性7.6%と約2倍の差があります(表2)。この原因はどのようなことが考えられるのでしょうか。



ジェンダー平等の意識は大きく変化している

濱西 両親は共働きですが、母は「お父さんは会社で頑張ってくれているから」と家事全般をやっています。一方で、姉夫婦も共働きなのですが、義兄は積極的に家事をやっているようです。母と姉の世代で少し変わってきたのかなと思います。



安河内 男性の意識は世代でかなり変わってきていると思います。どちらも働いてどちらも家事を、という家庭が増えてきていると感じます。

企業の取り組みを後押しする必要がある

大淵 中小企業診断士をしています。特に中小企業など従業員が少ないところは、男性が基幹的な業務を担っていると「休まれると困る」という意見が強いですね。結果的に、女性に家事の負担がかかってしまうところがあります。

安河内 そのような現状に対して、新しい取り組みをすることもなく、ジェンダー平等の視点もない会社は、今後若い人に選ばれなくなっていくと思います。**トップの考え方が変わっていくこと**、そのためにも市役所が率先して取り組み、モデルケースを作っていくことが大事だと思います。



大淵 「ジェンダー平等の考え方や必要性は分かるけど大企業や特定の業種だからできること」と考えがちです。少しずつでも、さまざまな規模・業種のロールモデルを作って、**好事例を示すような取り組みを進めていくこと**が重要だと思います。

安河内 業界ごとの団体のトップなどがリーダーシップを発揮することも大事ですね。

大淵 また、例えば出産した女性が復帰する際に、**職場が配慮しすぎて責任の重い仕事を任せるのを避け、結果的に女性がキャリアを積**

む機会を奪ってしまう、という話をよく聞くんです。

安河内 今後男性の育休が増えてくると、男女に関係なく対応が必要になりますよね。職場復帰する際には、**まず本人の意向を確認することが最優先**だと思います。そういう意味では、**トップだけでなく管理職の役割も重要**です。

企業と学生をつなぐ仕組みが求められている

濱西 私は大学生で就職活動中なのですが、例えば**女性活躍に取り組む企業の認定制度**などいろいろあると思うので、**そのような情報をしっかりキャッチすることが大事**だと感じました。

大淵 学生側がそういった情報を知って就職活動の判断材料にすることで、企業側の取り組みも促進されていく、という側面もあります。**情報が得やすくなる仕組み、企業が発信していける仕組みを工夫する**必要がありますね。



濱西 私が企画したインターン就活イベントでは、**企業と学生と一緒にグループワーク**をすることで、**その企業を深く理解するきっかけ**になりました。企業と学生をつなぐ分かりやすい仕組みがあるとよいかもしれません。

——**これからは「女性が」「男性が」ではなく「自分が」**どうしていきたいか、**の選択肢が広がる社会の実現が必要**ですね。ジェンダー平等を実感できるまちを目指して、皆さんの**選択を応援**します!

Q

性別による無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)はありませんか?



市長からのメッセージ

北九州市では今年、「女性」という観点からの政策強化を進めたいと考えています。

日本という国はまだまだ「男社会」です。女性の力と可能性が支えられ発揮できる環境に十分になっていないことは、私たちの社会にとって大きな問題と考えます。

最終的な目標は、女性だけでなく、どんな性別や境遇や価値観であっても、人と人の間に「絆」が感じられ、「どんな人生の選択をしても受け入れられる」「誰かが見てくれて応援してくれる」と思えるまちをつくることです。誰もが尊重される北九州市をつくるために、皆さんのご協力をお願いします。



北九州市長
武内 和久

